

スマイルだより No.2



発行 剣野 保育園
令和2年9月24日
責任者 植木 美和

おおきく なーれ! みんな なかよしのびのび保育園 保育目標

- 健康で友だちと仲良く遊ぶ子
- ルールを守って遊ぶ子
- 命を大切に、豊かな心を持つ子
- 物を創り出す力を持つ子

新型コロナウイルスにより新しい生活様式になって、新年度から半年が経ちました。保育園現場では幼児期の大事な時期にこれでいいのかと悩みながらも愛着をもって子どもたち一人ひとりの成長を願い保育をしています。

2018年4月に「保育指針」が改訂され、乳幼児期から積み上げていく教育の必要性が示され「生涯にわたる生きる力の基礎を培う」という視点で、今まで以上に保育の質の向上を目指しています。

保護者の皆さまと子どもたちの成長を共有できるよう、保育園で取り組んでいる「幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についての視点をお知らせいたします。



《 保育園で行う保育とは? 》

保育園は子どもたちに対して養護・教育を一体的に行っていきます。



- 生命の保持…子どもの健康と安全をしっかりと守ること
- 情緒の安定…子どもの心の安定を図ること



- 1歳以上
- 健康・人間関係・環境・言葉・表現という5領域で示されています
- 0歳は
- 健やかにのびのびと育つ
 - 身近な人と気持ちが通じ合う
 - 身近なものに関わり感性が育つ

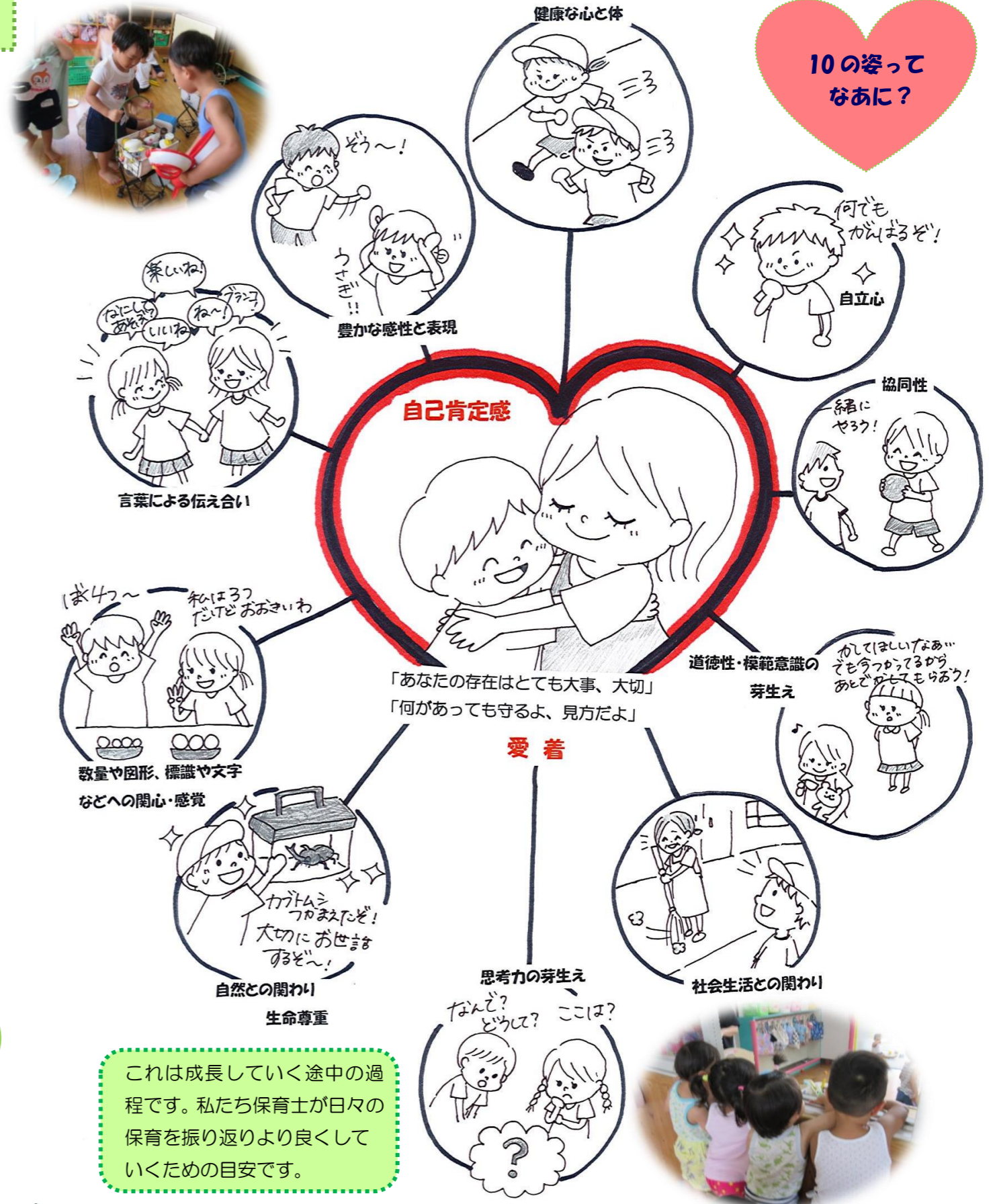


《 愛着とは 》

子どもは誰かに守られ、育ててもらえないと生きていくことができません。子どもにとって、毎日の出来事は楽しいことばかりではありません。不安で怖いこともあります。そういう時に、誰かに「大丈夫!？」と言って「ギュッ」と抱きしめてもらえたら、子どもは安心できます。「大丈夫!」と言って守ってくれる人を子どもは求め、その人の体に触れると安心します。子どもが特定の人を求め、そして安心するこのような関係を《愛着(アタッチメント)》といいます。

幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿

幼児教育の核となる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を分かり易く記載しました。一番の基本は愛情です。愛情をもらった子どもは、遊びの中やたくさんの経験の中から、自己肯定感を持ち「10の姿」を育てていきます。子ども達の成長を保護者の皆さまと一緒に見守りながら、日々の保育にこれからも取り組んでいきます。



これは成長していく途中の過程です。私たち保育士が日々の保育を振り返りより良くしていくための目安です。



スマイルだより No.2



発行 剣野 保育園
令和2年9月24日
責任者 植木 美和

おおきく なーれ! みんな なかよしのびのび保育園 保育目標

- 健康で友だちと仲良く遊ぶ子
- ルールを守って遊ぶ子
- 命を大切に、豊かな心を持つ子
- 物を創り出す力を持つ子

新型コロナウイルスにより新しい生活様式になって、新年度から半年が経ちました。保育園現場では幼児期の大事な時期にこれでいいのかと悩みながらも愛着をもって子どもたち一人ひとりの成長を願い保育をしています。

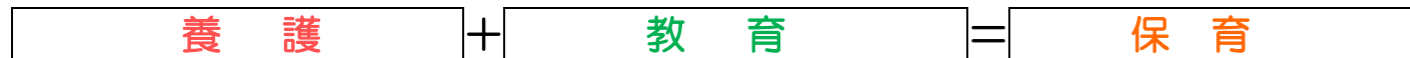
2018年4月に「保育指針」が改訂され、乳幼児期から積み上げていく教育の必要性が示され「生涯にわたる生きる力の基礎を培う」という視点で、今まで以上に保育の質の向上を目指しています。

保護者の皆さまと子どもたちの成長を共有できるよう、保育園で取り組んでいる「幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についての視点をお知らせいたします。



《 保育園で行う保育とは? 》

保育園は子どもたちに対して養護・教育を一体的に行っていきます。



- 生命の保持…子どもの健康と安全をしっかりと守ること
- 情緒の安定…子どもの心の安定を図ること



- 1歳以上
- 健康・人間関係・環境・言葉・表現という5領域で示されています
- 0歳は
- 健やかにのびのびと育つ
 - 身近な人と気持ちが通じ合う
 - 身近なものに関わり感性が育つ

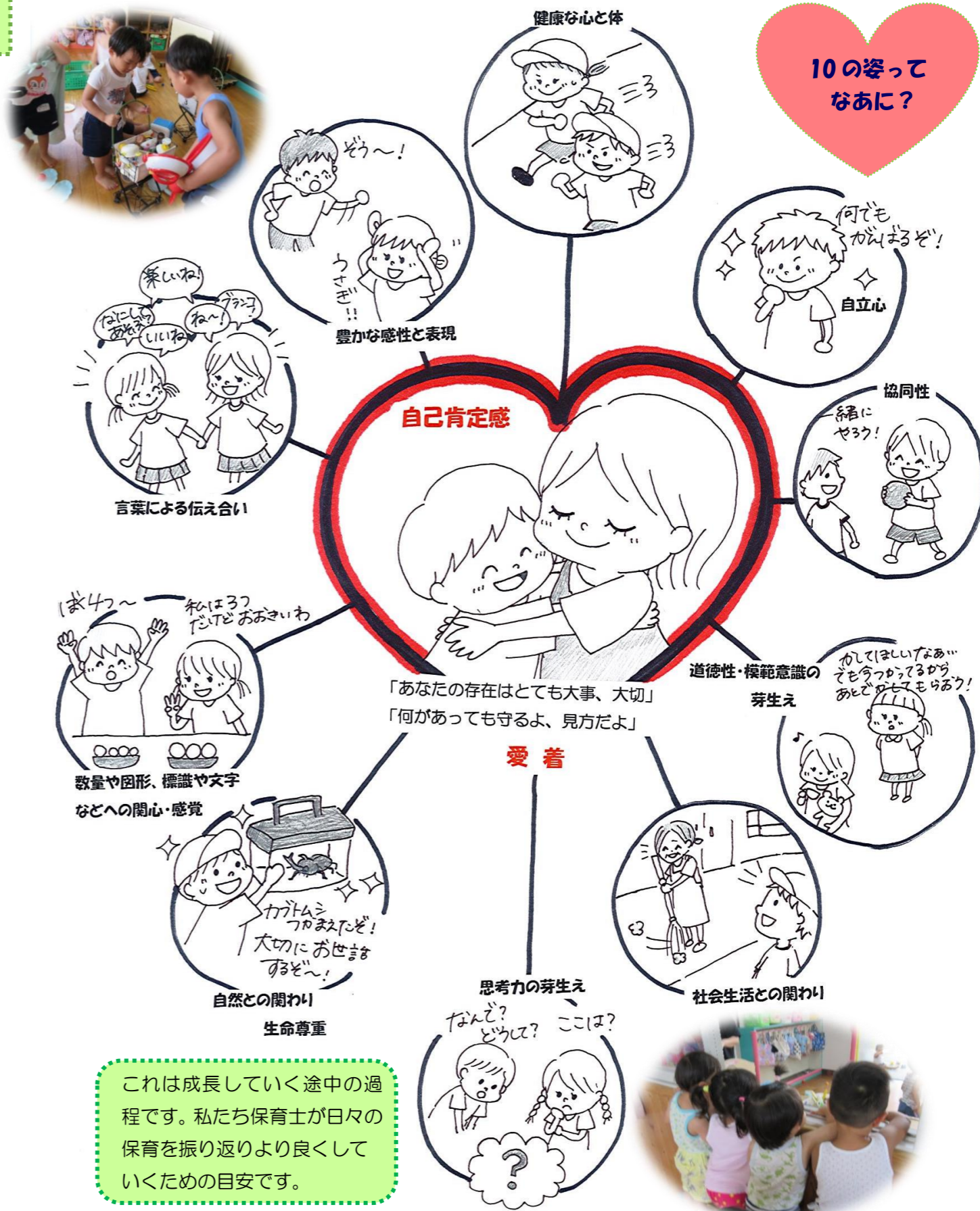


《 愛着とは 》

子どもは誰かに守られ、育ててもらえないと生きていくことができません。子どもにとって、毎日の出来事は楽しいことばかりではありません。不安で怖いこともあります。そういう時に、誰かに「大丈夫!？」と言って「ギュッ」と抱きしめてもらえたら、子どもは安心できます。「大丈夫!」と言って守ってくれる人を子どもは求め、その人の体に触れると安心します。子どもが特定の人を求め、そして安心するこのような関係を《愛着(アタッチメント)》といいます。

幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿

幼児教育の核となる、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を分かり易く記載しました。一番の基本は愛情です。愛情をもらった子どもは、遊びの中やたくさんの経験の中から、自己肯定感を持ち「10の姿」を育てていきます。子ども達の成長を保護者の皆さまと一緒に見守りながら、日々の保育にこれからも取り組んでいきます。



これは成長していく途中の過程です。私たち保育士が日々の保育を振り返りより良くしていくための目安です。

